

学校関係者評価 令和6年度 総評

学校法人小倉学園 専門学校東京自動車大学校 学校関係者評価委員会は、自己評価報告書査読、学校校舎・施設設備の見学、並びに学校自己評価委員から報告を受け、当学校が国土交通省第一種自動車整備士養成施設、ならびに文部科学省職業実践専門課程の要件を満たし、適切に運営されている学校法人であると判断した。

各評価項目の総評は以下の通りである。

1 学校の教育目標

- ・我が国の自動車産業を担う有為な人材を育成し、活力のある社会づくりに貢献する。
- ・礼儀、責任、融和を校訓とし、技術に優れたカーエンジニアの育成と健全な人格の形成を目指し次の三項目を教育方針としている。

- ① 自動車に関わる基礎的知識、技術を習得する。
- ② 変化する新技術に対応できる知識を習得する。
- ③ 自分で考え、自分の意志で行動できる人材を育成する。

目標・教育理念等に関し、学校案内パンフレットやホームページを通じて学校外に向けたメッセージ発信を行うとともに、入学生・在校生に対しても「学生便覧」の理事長の言葉、校長の言葉を通じて周知が図られている。

「明るく楽しく学ぶ」ことの具体的実践として自動車・バイクに係るクラブ活動やサーキット授業などが開催されている点は評価できる。

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 整備士資格合格率向上

国家1級小型自動車整備士、国家2級ガソリン自動車整備士、国家2級ジーゼル自動車整備士、国家自動車車体整備士の合格率100%を目標とする。

② 入学定員の確保

2級整備士コース（定員160名）、1級整備士コース（定員120名）、ボディクラフト科（定員40名）の入学者の確保に向けて、募集活動を行っていく。

③ 退学率の減少

入学者数が減少している中で、途中でのドロップアウト5%以内を目標に学生指導にあたる。

3 評価項目の達成および取組状況

1. 教育理念・目標

専門技術教育に加え、学生一人ひとりが「自分で考え、自分の意思で行動できる」に着眼した教育を模索したが、その達成は必ずしも十分とは言えなかった。今後は教職員一人ひとりの意識を高めるとともに、専門分野を離れた社会人としての素養・知識・教養を育むための授業時間を確保することが必要。

また日本の自動車業界全体としてのイメージダウンが懸念される中で、将来自動車整備士を目指す若者を増やしていく活動が必要であり、今後の小学生、中学生に向けて、

自動車業界の魅力と、自動車整備士の仕事を知ってもらう活動（見学会や出張授業な）を継続的に行っていく。

2. 学校運営

教員の高齢化が進んできており、新たな教職員の採用が急務である。人事・給与に関して、給与体系や勤務条件などの見直しを行い、令和6年度は、卒業生3名の教員採用ができたが、令和7年度も継続して教員募集を行っていく。

3. 教育活動

人材育成の目標達成に向けても、教員の確保が急務である。コロナ感染症が収束するにつれて、入学者数も増加傾向にあるため、求人サイトを活用した教員の募集を継続するとともに、卒業生に対して教員採用求人票を発送して誘致を行う。また教員の知識・技能向上に向けて、企業と連携し勉強会を開催していきたい。

4. 学習成果

学生の減少率は8.5%から4.5%に改善され、年度目標の5%をクリアできたが、在籍に対して留学生の割合が増加しているなかで、日本人の退学者が目立っている。退学率の増加の要因としては、通信制・サポート校などからの入学者が増加し、何らかの問題を抱えている学生が増加したことがあげられる。退学率の減少に向けて、クラス担任、学年主任、教科担当が情報共有して学生のメンタル面でのフォローをしていく。

就職率は100%を達成。自動車整備士国家試験合格率は2級100%、1級（筆記）98.1%、車体100%で、1級合格率は昨年度より上昇したが合格目標100%は残念ながら達成できなかった。

5. 学生支援

クラブ活動においては、近年入部希望者の減少や、顧問教員の業務的負担が大きく、活発な活動ができていない。クラブ活動の継続、廃止、新規設立について、活動内容を考慮して検討を行い、クラブ顧問の校務負担の軽減を図っていく。

入学予定者に対して、新たにプレスクール（入学前教育）を2回開催した。入学後の授業の流れをイメージしてもらうことで入学前の不安など払拭する機会を設けたことは評価できる。

6. 教育環境

学生数の増加によりトイレが不足する問題については、スペース的な問題で増築は難しいため実習場内（1号館、3号館）のトイレを昼休み時間も開放して対応する。特に令和7年度の女子学生の入学者の増加（12名）により、女子トイレが不足するためトイレブースの増設工事を実施した。

防災については、4月に避難訓練・消火器を用いた消火訓練は実施しているが、震災等への対応という点ではまだまだ改善する余地がある。

海外研修については新型コロナウイルス感染防止のため中止していたが、希望者対象に香港・マカオ研修を実施した。令和7年度はコロナ前同様にイタリア研修旅行を実施予定。

7. 学生の受け入れ募集

募集定員の充足は出来ていないが、昨年度よりも留学生の増加に伴い入学者総数は増加した。今後は日本人の入学者の確保が課題である。学納金額（預り金を含む）について募集戦略上、値上げはむずかしい状況ではあるが、物価上昇に伴い教材費や電気・水道等の運営費の上昇などを考慮して、今後は学納金の値上げの検討が必要と思われる。

8. 財務

18歳人口の減少を見据えた健全な財務運営の検討が必要になるため、7と同様に、学納金の値上げについて検討していく。

9. 法令等の順守

特に問題なし。

10. 社会貢献・地域貢献

近隣高校のエンカレッジ、インターンシップの受け入れを継続的に実施し、集団献血や地域の一員として地域イベントにも協賛していることは評価できる。

11. 国際交流

前年同様、入学を希望する留学生の日本語力・目的意識など個人別格差が大きい中で入学基準の確立、入学後の国家試験合格と就職支援に向けての指導強化が課題である。

現在実施している担任と留学生担当2名による両面のきめ細かいフォローを継続することが必要になる。

[参考] 令和6年度留学生在籍数 109名、令和7年度留学生在籍数 157名
令和6年度の留学生のビザ更新不許可数0件

以上、専門学校東京自動車大学校関係者評価の総評とする。